



先輩職員インタビュー

「学校教育の土台となる情報サービス機関を目指して」



司書

所属

福島県立白河実業高等学校

● これまでの経歴(所属年度)

H28~H30 福島県立図書館 資料情報サービス部
一般資料チーム
H31~ 福島県立白河実業高等学校

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 高等学校図書館の運営を担当しています。学校図書館に関わる業務を一手に担うため、資料の収集・整理をはじめ、カウンター業務や読書指導、図書館システムや視聴覚機器の管理など、業務内容は多岐に渡ります。また新学習指導要領の施行や教育のICT化の流れを受け、資料の媒体や提供メディアの検討など、学校図書館の新しい在り方も模索する毎日です。様々な工夫を凝らした学校図書館を、実際に多くの生徒や先生方が利用してくれることに一番のやりがいを感じます。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 司書は「人」と「情報」を繋ぐために、様々な知識や情報メディアに精通していることが求められます。利用者サービスにはコミュニケーション力も必要で、幅広いスキルと視野が要求される職種です。その独特な専門性に心惹かれ、私は出身地である福島県の司書を志望しました。

学校図書館においては教育的な視点も必要となってきます。読書指導や調べ学習など、子供たちの情操教育や情報リテラシー能力構築の一助となるサービスを工夫して提供していきたいと考えています。



↑カウンターでの貸出業務。

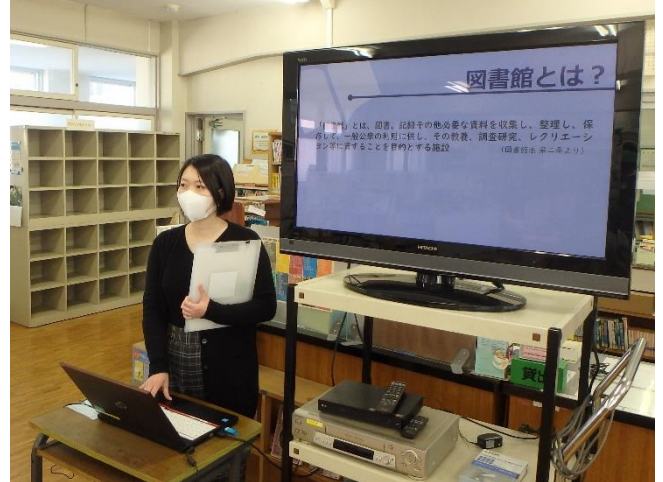


Q. 仕事をする上で心がけていることは何ですか。

A. 生徒や先生方との情報交換を最も心がけています。学校図書館では、生徒間での流行や教育の状況に応じたサービスが重要となります。司書としての専門性は自らの学びで獲得できますが、学校司書として最も求められる知識や技術は、現場から直接吸い上げることが肝要と考えています。



↑ 書架整理の様子



↑ 学校図書館の利用指導

(新入生図書館オリエンテーションの様子)

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「職場が直売所に」「自転車通勤」「積読がたくさん」「趣味は温泉旅行」
「“司書”だけど“先生”と呼ばれます」

Q. 「職場が直売所に」について教えてください。

A. 本校には農業科があり、生徒が育てた採れたての農産物を買うことができます。品質も高く、我が家の食卓の支えとなっています。それだけでなく農作業の説明を聞くことで、仕事でも選書の役に立つなど自身の知識の広がりを感じています。

Q. 「自転車通勤」について教えてください。

A. ペーパードライバーの私は自転車で通勤をしています。地方で車のない生活は不便と思われることが多いですが、バスや電車、マイカー（自乗車）を駆使して充足した毎日を送っています。なによりデスクワークの多いこの仕事、日々の運動不足解消に最適な通勤方法です。脱炭素にも良いかもしれませんね。